

再生医療 京都から発信

日本で開かれる初の再生医療分野の国際学会「第5回国際組織工学・再生医療学会世界会議」が4日から、京都市左京区の京都国際会館で開かれる。細胞組織の形成に工学的な考えを取り入れる組織工学が重要なテーマの一つで、多くの企業に参加。その中で、6日のランチョンセミナーでは中小企業など、地元・京都の8社が発表を行う。企業展示数も140件のうち約40件が日本の中小企業だ。中小の先端研究への挑戦に注目が集まる。

(大阪・安藤光恵)

多角的に考察

大会長は、TERMI S-IAP理事長でJS

国際組織工学・再生医療学会世界会議は京都大学ウイルス・再生医療研究所教授と、学会アジア太平洋(TERMIS-IAP)と事でJSRM理事長の日本再生医療学会(JI) 沢芳樹大阪大学大学院(SRM)の共催で7日 医学系研究科教授の2まで開く。国際会議の人が務める。工学や医

日本初の国際会議 3500人参加

学会発表予定の8社

社名	所在地	発表内容
ナカライテスク	京都市中京区	ヒトiPS細胞の心筋デバイス
京都リサーチパーク	京都市下京区	京都リサーチパークでのヘルスケア分野の革新的活動
幹細胞&デバイス研究所	同	3次元配向性心筋
グローヴ	同	細胞培養デバイス
ウミヒラ	京都市南区	再生医療のための実験材料・道具
片岡製作所	同	高速レーザーによる細胞除去
ビーエムジー	同	生体吸収性ポリマー、接着剤、細胞凍結保護剤
シバタシステムサービス	京都府井手町	再生治療用の新しい組織切断機

学・歯学、薬学、理学など多様な立場から再生医療について考える。00のポスター発表な

中小の先端研究挑戦に注目

七つの基調講演と95のシンポジウム、18から約3500人の参加を見込む。この大規模な国際学会で、日本の研究が進んでいる

模な国際学会で、日本の研究が進んでいる。中小企業が世界へ情報を発信する。田畑教授は「観光や文化で知名度の高い京都で、学術研究や製造業の底力も海外の人に知ってもらいたい」と話す。

自然治療に重点。日本では再生医療について、iPS細胞(人工多能性幹細胞)を中心とする細胞治療のイメージが強い。ただ、海外では「身体が

は大きい。医療分野参入へのハードルは高いが、研究向けの試薬や器具は医療機器承認が不要のため、進出しやすい利点もある。

「今できること」

本来的に自然治療力を高め、失った機能を取り戻す観点から、多くの研究が進んでいる。田畑教授は指摘する。今回の学会で発表する中小8社も、実験器具や培養デバイス、細胞組織の質を高める装置、医療用材料など、さまざまな形で再生医療を支える。田畑教授は「組織工学の研究の活性化のため、体内の活性化のため、体内の環境を整えるのを助ける器具や繊維などの製品が求められている。さらに、新しい治療が普及するには製品化が業が組織工学に目を向けることを期待する。